

加藤雀庵 かとうさくあん 俳人、隨筆家。寛政八年生れ、明治八年十一月十日  
 歿（一七五〇—一八七五）。舊姓田中、諱昶 たかし、通稱田中彌四郎、加藤長房。號  
 かりのや、さくのや、今津村老、今津里人、升介、升金、千聲、堤隣  
 樓菊馬、堤隣翁、墨水白鷗、墨水翁、立川菊馬、篠の屋白鷗、篠舎、  
 藤の長房、藤原長房、雀庵長房。武藏國豊島郡今戸に、また京都兩國  
 に住して雜學博識、隨筆「オムノヘ繪草」二百二十七卷（その自筆稿本の大部分を井上頼國所蔵せりと）を著はした他、書籍の筆寫を好んで多く  
 の寫本を残した。辭世へ花七百人としちやのひとながれ。  
 内題に「一各草籠」と副題のある、室松岩雄編 隨筆 珍本「へづり草」各  
 題「むしの夢」明治四十二年十一月十一日—二十一日 致堂書店、「松の落葉」  
 四十四年五月五日—致堂書店、「雪の跡」四十五年二月十八日法文館  
 書店）がある（一冊目の巻末廣告には全五冊とある）。

